

OIS

大阪府インテリア設計士協会

〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14  
TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553

U R L <http://jp-interior.or.jp/ois>  
blog <http://oisblog.exblog.jp>  
E-mail ois@jp-interior.or.jp

発行人：梅田  
編集人：田原(第3事業部長)  
スタッフ：石渡・今井・加茂・五代  
瀬部・福田・山田  
河野(第1事業部長)  
事務局：岡崎・奥田

想

“想い”を“形”に！

No.94



お初天神



## 平成26年を迎えて・・・

副会長・田原 妙子

明けましておめでとうございます。

平成26年の干支は甲午(きのえうま)。

甲は兎、押さえる殻を破り芽生えていく動きの様。午の字は、人の下に陰陽十字があり、陰気が陽気に逆らい地を冒して出る。下から万物が成長し大きくなる。という意味だそうです。

甲午は、新しいことを起こす時。革新的な動きが新しい出会いから起こる、となるそうです。

OISにおいても、皆さんの縁を繋ぐことを数々行っています。それらのきっかけから縁が拡がって、今までの殻を破り、想いの力で行動して、その想いを形にしていただければと思います。今年もよろしくお願ひいたします。



年明けの5日、お初天神でOISの発展と会員諸氏の活躍並びに梅田会長の平癒を祈願しあ祓いを受け、新年会を楽しみました。

このたび和食が無形文化遺産に指定され世界的な広がりを見せていますが、インテリア・建築の世界でも、茶室を中心とする和風空間、伊勢神宮や出雲大社の遷宮が引



## 協会の発展を祈願

### 恒例・OIS年初め行事「初詣」

金となり日本建築が世界から注目され始めています。私は、OISがその要となり、世界に発信する中枢となるよう祈願しました。

新年会では輪投げゲームで今年の運試しを楽しみ、ブリしゃぶや蟹に舌鼓をうちながら、協会の今後や、インテリアのノウハウを後継者に伝えることなど、有意義な話し合いで時間が流れました。何事も、本当のコツは本だけでは学べないので、日本のインテリアを担ってきた先輩と直接お話ができるOISの行事で学ばせていただいたことで、今の私があると思っています。

また今回は、命や愛について、普段は話

さないような深い会話もあり、今まであまり話す機会がなかった方々との距離が一気に縮まった気がしました。

今年も、協会の発展と、安全・快適なインテリア設計で、生活者に幸せな空間を提供し続けたいと思いますので、ご指導ご鞭撻ください。  
(記・山田 弘美)



(2)

## 第28回 みんなで楽しむ 「陶芸教室」と「アウトドアパーティー」

陶芸教室の始まりは27年前の昭和61年11月、みぞれの降る寒い日でした。前日に立杭焼き窯元の里にある旅館「立杭荘」に泊まり、牡丹鍋とお酒で身体を温め、翌朝「丹文窯」へ行きました。参加者は、故・大竹会長以下5人でしたが、かじかむ手で土をひねる陶芸に初挑戦しました。その頃は、今のご主人のお父さんの頃で、初めは灰皿ぐらいしか作れないよと言われましたが、何度もつぶし作り直して何とか高く積み上げて壺を作った記憶があります。



熱心な作陶の様子

それから、年々参加者が増え一時期は50人を超える大所帯、2班に分けるほどになり、アウトドアパーティーもまるで丹文窯のお祭りのように大盛況でしたが、近年は減る一方で寂しい限りです。

今回の陶芸教室は参加者が16人、その中で会員は僅か8人でした。でも、そのご家族やお友達などで、和気藹々と楽しい一日を過ごすことができました。私は毎回参加し作品が増え続けていますが、良い作品は家の階段一段ごとに並べて楽しんでいます。土をひねっている間は不思議なことに我を忘れて作品作りに没頭する、この時間が最高に充実するものです。仕事仕事に追われて少し疲れている私たちにとって、「粘土の感触」が子供の頃を呼び戻し、人間の心を自然に癒してくれるのですね。

今回(10月27日)の参加者の中には、4人のお子達がいましたが、窯元の奥さんに基本を教えてもらい、ちょっと怖い声での指導でしたが、何度も作り直しながらいくつもの作品を作っていました。作りだすと次々とアイディアが浮かんでくるのでしょうか。

アウトドアパーティーもそれぞれが持ち寄った食べ物と日本酒・ワイン・ビールなどで盛り上りました。また、おでん、ソーセージや焼きそばなど、温かい食べ物を次々に作っていただきお腹いっぱい、事務局の仕事とはいえ、感謝しています。

帰りはバスの時間の関係上、マイカーで来られた人以外は田舎道を楽しみながら、相野駅まで歩きました。天気も最高に良く秋の素晴らしい一日を満喫できました。こんな楽しいイベントに、来年は多くの会員の参加を望んでいます。

(記・疋田 友一)



↑山本さん家族の作品  
→疋田さんの作品  
小長谷さんの作品→

### f facebookを始めませんか

誰しも新しいこと、特にSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の場合は個人情報が漏れで怖さの方が先に立ちますが、やってみると、なかなか面白いものです。最初は自分から情報を流さず様子をみていくと分かり、人の真似をして、「今日、ドコソコへ行きました」「○○店の□□がおしいですよ」など、たわいもない世間話から入ると、そのうちに友達も増え、さらに面白くなっています。ぜひ始めてください。やり方はインターネットで「facebook」を検索、「アカウント登録」をクリックし、必要最小限を記入しクリックする。次に、「大阪府インテリア設計士協会」というグループを検索し、グループに参加を申し込み、以上です。

## 初参加でも楽しめた“忘年会”

### おしゃれな会場にも満足

本年度の検定に合格して会員になったばかりの私ですが、12月6日の忘年会の会会場が一度行ってみたい場所だったので、に参加することにしました。

会場は淀屋橋odonaにある「中之島グリル」。御堂筋のイルミネーションを鑑賞しつつ会場に着きました



開宴の挨拶をする河野副会長

が、想像以上の洒落た雰囲気に満足いたしました。

少し体調を崩されている梅田会長に代わる河野副会長の開宴の挨拶と乾杯の音頭で忘年会は和やかに始まりました。

会の中盤には、恒例!?のクイズ問題(今回はお正月に関する問題)が配られ挑戦しましたが、意外にも習わし事を曖昧にしか覚えていなかったことに改めて気付かされました。

正解率の1位から5位までの方々には立派なポイントセチアが贈呈され、惜しくも及ばなかった私たちには、3種類のインスタントラーメンの詰め合わせで、私も頂いて帰りました。



クイズの答え合わせ中

会の最後は南野副会長の挨拶で締めくくられましたが、インテリアに興味を持って会員に仲間入りさせていただき、ご活躍をされている会員の皆様にお会いでき、本当にうれしく思っております。どうぞこれからもよろしくお願ひいたします。

(記・来藤 澄江)

## 初めての“篆刻”にワクワク



守屋さん

### 初めての“篆刻”にワクワク

私は、木やゴム、芋を彫った版画の年賀状を毎年作っていますが、その手作り版画年賀状に自分で彫った落款を押したら、さらに格好がつくのでは!と軽い気持ちで、印鑑と篆刻の区別さえつかぬほど予備知識のない状態で、教えて貰いながら「ただ印鑑を掘る」、そんなつもりでOISの篆刻教室に参加しました。

OISの篆刻教室では、いきなり彫り始めることはしません。まず教えてくださる随想名人(随想は宮後・前OIS会長の雅号)の楽しくて為になる篆刻学習タイムからスタートです。

なかでも印鑑とは事務的の用途で押すものであり、篆刻とは「芸術作品にこれ以上手を加えない」という作品完成の印として押すものであるというお話を、興味深くお聞きしました。随想名人の独特の話術と楽しいウンチクで時が経つのも忘れるほどです。

約1時間の講義の後、いよいよ彫り始めます。彫りやすいように1センチ角の石材に予め希望した文字を朱書きして下さっているのですが、なかなか思いどおりに彫り進めません。硬いわけではないのですが独特のコツがいるのです。繊細な心配りと集中力が必要だと実感、とても貴重な体験をさせていただきました。

これで今年の年賀状は、名人に助けられながら完成した篆刻でなんとか格好がつきそうです。しかし自分では納得できる作品には至りませでしたので、また機会があれば挑戦したいと思います。今回

はお世話になり、本当にありがとうございました。(記・守屋 一之)



守屋さん、苦心の作



まずは篆刻のお勉強から…

# 事遊展 2013

見て欲しい“力作”がいっぱい！

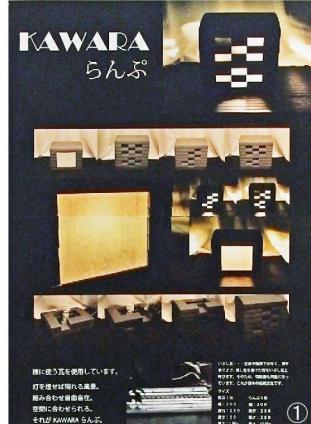
2013年の「事遊展」は11月2日(土)～4日(祝)にOCAT4階・難波市民学習センターで行われた。

今回は、会員だけではなく、大阪府下の学生を対象に作品を募り、学生に作品発表の場を提供した。その結果、4校26人からの出展があり、建築模型・図集・CG作品・照明器・ペーパーウェート・服飾関係など、ジャンルの異なるバラエティー豊かな作品が学生作品コーナーを彩った。

会場を訪れた観覧者に、学生作品の中からお気に入りを3点選んでもらい、2日目までの結果で上位5人に賞状と金一封を贈った。

最優秀賞には、中央工学校OSAKAの桑山くんの作品が選ばれ、優秀賞、佳作は別表のとおりである。

また、現在国際特許出願中の「カーボンシェア」を出展された宮本さんは、その説明のために四六時中会場待機、多数の方々を会場



最優秀賞「すばらしいで賞」 KAWARAランプ 写真-①  
優秀賞「すごいで賞」  
佳作「いいね！」



会場の様子

に誘致、弧軍奮闘の形で事遊展を盛り上げてくださいました。

それらお蔭で、例年に比べると賑わったが、肝心の会員、理事役員の来場が少ないのも事実で、大きな反省点である。(記・事務局)



②



学生作品コーナー

## 秋晴れの下・岸和田城スケッチ

厳しい残暑ではないかと心配された10月12日実施の「岸和田城と町並みスケッチ会」は、さわやかな好天の秋晴れで、木陰を通る風は肌と心にやさしい絶好のスケッチ日和であった。

「城」は建築の構成美として難しいモチーフであった。建築全体のバランス、各部の納まり、それなどによりも、城の持つ歴史性と時の権力者の財力や精神性を感じとめて威風堂々の絵に描きあげるように心がけたつもりであった。

同行した私の弟子が、講師・渡辺さんのご指導を受け、「ちょっとしたアドバイスをいただいて大いに自信をつけた」と喜んでいた。

最近、この弟子が力をつけてきて、私の言うことを聞かなくなってきたので、内心「感謝・感謝！」である。

熟年夫婦の「好天秋晴れの小旅行」であった。(記・植村 哲)



渡辺さんの作品



## “酒は百薬の長”か？

年末年始、ちょっと飲みすぎたかなと思っておられる御仁にひとこと…。

“酒は百薬の長”は、適量の酒はどんな良薬よりも効果があると、酒を贊美した言葉。酒は緊張をほぐしたり気分を良くする精神的効果はもとより、医学的にも「体に良い」根拠はあるものの、飲み過ぎるとどうなるかということも、誰でも知っていることである。

物の本によると、漢の国を篡奪(さんだつ=奪い取る)した王莽(おうもう)が、酒を称えて言った言葉で、『漢書・食貨志下』にある「夫れ塙は食肴の将、酒は百薬の長、嘉会の好、鉄は田農の本」からの引用となる。

前述のとおり、酒を良いとするには「適量ならば」という条件付きであるが、しばしば酒飲みが酒を贊美して自己弁護に使っているケースが多い。

『徒然草』に「百薬の長とはいへど、満(よろず)の病は酒よりこそ起これ」とあるように、必ずしも飲酒を手放して推奨するべきではない。

酒飲みの味方になってくれる類義語に  
「酒に十の徳あり」「酒は憂いの玉簫」「  
酒は天の美禄」などがある反面、  
「酒は命を削る鉋」「酒は諸悪の  
基」「酒は百毒の長」という対  
義語もありますので、酒飲み  
紳士淑女、用心に越したこと  
はありませんよ。(奥田忠彦)



## ●今後の予定●

★第18回 Designer's Bar…2014年2月7日(金) 18:30～  
於・コラムデザインセンター

\* BINGOでチョコレートなどのスイーツ交換会を予定

★第5回MANA-BOZE「正しいウオーキング」(詳細未定)

★平成26年度総会…2014年4月26日(金)(詳細未定)



## テーブルコーディネート講座

## “聞いて納得・テーブルマナー”

食べることが大好きで、よくいろんなお店に行きますが、今までは素敵なお店に行っても、その雰囲気を楽しむだけで終わっていたかもしれません。

今回の「テーブルコーディネート講座」を受講して、「テーブルセッティング」の意味やその背景を改めて認識し、有意義な時間を過ごすことができました。

まず、イギリス式とフランス式の違い。ひとくくりに言えば同じ「洋食」の場ですが、「パン皿の有無」「テーブルクロスの意味」「シャンパングラスの違い」などを知ることができました。

食生活の違いや生活習慣、考え方などが違うとなっているとのことですが、何においても相応な意味(背景)があるのですね。

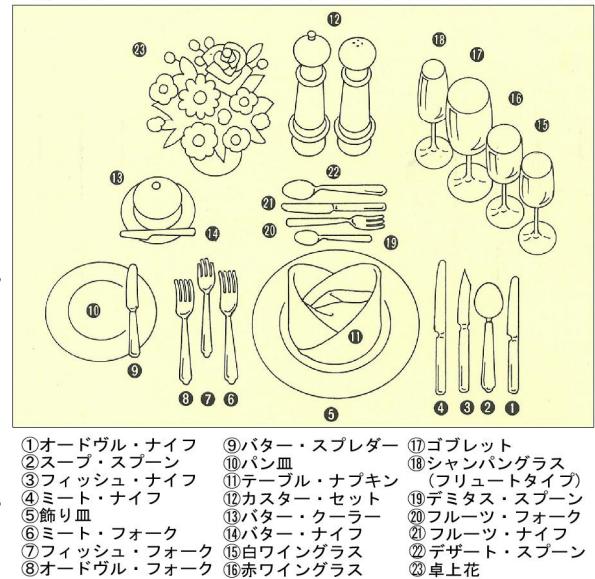
日本には「敵に塩を送る」という言葉あり、また、給料を意味する「サラリー」の語源が「salt」であるように、外国でも塩は昔から貴重であるがゆえに、テーブルに、カスター・セットとして置かれた塩は「貴重なものを相手に提供する=歓迎」を表すなど、雑学的なお話も興味深く聞くことができました。



食べることは、人間生活では当たり前の動作です。その「食」を提供する場は、相手をもてなし、さらにお互いの心を開くことにつながると思います。  
(記・北川 有希)  
心をこめて食事

を作り、それを提供する…、「テーブルセッティング」は、単なる「おしゃれ」ではなく、生きていく上での「食」を、最大限に感謝できる素敵なおもてなし」なのだと感じました。

そして、標準的テーブルセッティング(グラスの位置は図の限りではない)



私たちOISメンバーの「清水寺見学会」という以上、一般観光客が見るコースを「もみじ、綺麗やなあ～」と巡るだけではありません。

清水寺は、康平6年(1063)にも全山を消失するなどの火災に見舞われましたが、特に、応仁・文明の乱による文明元年(1469)の戦火、寛永6年(1629)の大火灾では伽藍の大部分を消失しました。

現存する建物のうち、子安塔、仁王門、鐘楼は応仁・文明の乱後に再建、馬駐は元和年間の建て替えですが、本堂他12棟は寛永火災後、徳川家光の命により復興されたものです。したがって、現在の建物は、この寛永期の再建後、修理を重ねてきたもので、400年近い歳月、風雨にさらされ大きなダメージを受けています。

世界遺産に指定された貴重な建築を未来に残すため、現在、「平成の大改修(平成20年から)」が行われており、8つの重要文化財と国宝「本堂」を順次修復していくもので、建物の状態により全解体、柱を残した半解体など、大がかりな工事で、総工期11か年、総予算40億円の一大事業です。

我々はそのうち、「阿弥陀堂」および「奥の院」の保存修理現場を、担当されています京都府教育委員会の技術者・小宮さん(紹介頂いた今井理事の先輩)の解説で勉強させていただきました。

見学会が行われたのは11月27日、紅葉真っ盛りの観光シーズン。私の場合、阪急電車河原町駅から徒歩で向かいましたが、大勢の観光客、特に「二年坂」「三年坂」と、清水寺に近づくにつれ「ヒト・ひと・人」の波、思うように歩けない状況でしたが、集合時間には間に合いました。

一同が揃ったのを見計らい集合場所である「善光寺堂」の前で全般的な説明を

受け、いざ目的のお堂へ。

「阿弥陀堂」の屋根葺き材料は、当初の檜皮からこけら、銅板を経て、修理前は桟瓦になっていました。

また、建具なども、桟唐戸になっていましたが、創建当時は蔀戸であったことが分かっており、全て元の姿に復元するそうです。

「奥の院」というと、私の印象では本堂から少し離れた小高い場所に位置するものと思っていたが、本堂からすぐ、阿弥陀堂に隣接しています。修理の内容としては、耐用年数に達した檜皮の葺き替え、腐朽した大梁材などの取り替え、彩色の剥落止めやクリーニングなど、半解体修理に及ぶ大工事、あわせて、後世に改造された部分も可能な限り創建当初の姿に復元するというものです。

また、傷んだ材料も、できうる限り元の材料を使うように心がけ、手間を惜しまず部分的に交換・補強されていました。私の拙い文章では表現不可能な苦労が眼に見えるようで、完成が待たれることです。

今回も仙台、福岡から参加の会員さんたちと、清水寺の名称の由来になっている清い水の音羽の滝を見物、記念写真を撮って解散しました。

(記・奥田忠彦)



講師の吉矢OIS理事



奥の院の屋根部分

